

障害者



情報の谷間に置かれ、支援が届かないことがあります。薬を持ち出せない、治療を受けていた医療機関が利用できない、避難場所への不応など、病気の悪化や再燃につながりやすくなります。作業所など生活を支える場が、被災後に機能を失います。介護者と離れることで心身の負担が増します。



- まず、避難の支援を受けられるよう、地域での避難体制に積極的に関与していきましょう。
- 普段から支援している関係者と一緒に避難できるとは限りません。必要な支援について遠慮なく、積極的に意思表示することが重要です。
- 支援する側は、被災された障害者の特性に配慮した支援を行えるよう、コミュニケーションを図っていきましょう。
- 薬を飲んでいる方は、薬の名前や量をメモしたものを必ず携帯し、避難する際はできるだけ薬を持参しましょう。
- 医療機関を早期に確保し、不安をとり除きましょう。

糖尿病の方



- 避難所では、医療救護担当者（保健師等）に自分の病状をはっきり伝えましょう。そのためには、自分の病状をよく理解しておくことが大切です。

持ち出すとよいもの

- 糖尿病手帳：手帳に病状や治療薬などの情報が記録されているので、医療対応にとっても有効です。
- インシュリン、血糖測定器（必要な方）：温度管理など必要な場合があるので、主治医の先生と相談しておきましょう。
- 自分で対応できない場合は、怪我をしていなくても医療救護所などで必要な治療の意思表示をしましょう。
- 水の確保。水分補給は特に意識しましょう。
- 自分向けの非常食を考え、準備しましょう。
- 非常持ち出し用にあるとよいもの：マスク、消毒綿、ウェットティッシュなど

※主治医の先生に、災害時の対応について相談しておきましょう。

【参照資料】東京都福祉保健局平成20年9月災害時の「こころのケア」の手引き
糖尿病ネットワーク「災害に備えて」